

いつまでも
ペットと一緒に



ケージフリーで、みんなと一緒に暮らす 老犬介護ホーム メロー

愛犬メローの看護と介護をきっかけに創られた、
最期まで『犬がその仔らしく生きる』ことを
最優先にした施設です。

介護が必要になったメローちゃんのために 「やりたいことをやらせてあげたい！」

天井が高く、明るい室内。温もりを感じる木製サークル。広く清潔なフリースペースで寝そべったり、じゃれ合ったり、のびのび過ごすワンちゃんたち。どの仔の顔も穏やかで楽しそう。「老犬介護ホーム メロー」は、従来の老犬ホームが持つ「暗い、狭い、汚い」イメージを払拭します。もとは印刷工場だったため、防音対策も万全。夜鳴きする犬も安心して過ごせます。

「すべてはメローが安全で、使いやすいかどうかが基準でした」と、オーナー・竹内秀公さんと奥様のひろみさん。愛犬メローちゃん(ラブラドルレトリバー)の介護と看護が、この施設を開ききっかけでした。

長年の「犬を飼いたい」という思いが叶ったオーナーの秀公さん、メローちゃんを迎えるにあたっては新車を購入。メローちゃんもドライブ大好き、いつも一緒にお出かけしたそうです。ところが生後9か月で股関節形成不全と診断され、手術を受けます。介助が必要な生活となりました。「でもそれが当たり前で、介護という意識はありませんでした」。足が不自由でも夏は泳ぎ、冬は雪遊びをし、元気に楽しく過ごす毎日。

そんなメローちゃんに癌が見つかったのは15歳の時。限られた時間のメローちゃんをずっと見守りたい、秀公さんは家業だった印刷工場をやめ、メローちゃんと、そしてメローちゃんと同じく介護や看護が必要な犬たちのため、「老犬介護ホーム メロー」を開く決意をしました。

しかし、たとえ大切な愛犬のためとはいえ、これまでの仕事をすべて投げ打ち、世間にもあまり知られていない「老犬施設」を開くことに、ご家族は反対だったのでは。

「不安より、やりたいことをやらせてあげたい、という思いの方がずっと強かったです」とひろみさん。ご自身も一緒に働けること、何よりメローちゃんをずっと見守れることが嬉しかったとか。

高齢でも病気でも、「今」を懸命に、 ひたむきに生きる犬たちから学ぶこと。

そんなお二人が運営されている「メロー」は、何より「犬がその仔らしく生きる」ことを大切にしています。ケージフリーで、お散歩は朝夕2回。歩けない仔もカートに乗せたり、車いすです少しずつ歩く感覚を取り戻させたりと、1頭1頭に合わせた介助方法で、「寝たきり」にならない工夫がされています。

「この仔たちも、本当はお世話されたくないと思う。自分で動こう、自分で生きようとしています。私たちはそんな『犬の尊厳』を大切にしたいのです」。

介護の工夫に加え、ネットワークカメラや、酸素カプセル、オゾン水 + マイクロバブルでのシャンプーなど、安心や健康のための装置やサービスも導入されています。

また飼い主さんの心のケアも大切にしています。夜鳴きする仔を朝まで抱っこし続ける飼い主さん、頻繁に粗相をする愛犬



▲中央のフリースペースには、寝たきりの仔を真ん中に元気な子たちが自由気ままにくつろいでいます。
◀愛犬メローが最期までついていたサークルの前で、竹内秀公さんとひろみさんご夫婦

の世話が追い付かず、何重にもおむつを履かせてしまう飼い主さん、そんな介護の切なさや苦勞を少しでも受け止めたいという思いから、「メロー」では預かりにこだわらず、介護や看護の相談を受け付けています。施設見学や面会も営業時間内であればいつでも可能。最初は迷っていた人も、竹内さんご夫婦と話し施設を見て、「このまま預かって下さい!」となること多いとか。

ただ、どんなに懸命に介護・看護しても、悲しい別れが来ってしまうことはあります。「メローをはじめ、何度もワンちゃんの旅立ちに出会いました。何度立ち会っても看取ることに『慣れ』なんて絶対ありません。」

でも、旅立った愛犬たちは「メロー」と飼い主さんに素敵なお土産を残してくれました。

「ワンちゃんが亡くなった後も、ずっと連絡を下さる飼い主さんが多いです。飼い主さん同士もお付き合いが続いていたり。ワンちゃんが結んでくれるご縁、絆ですね」。

高齢でも病気でも、「今」を懸命に、ひたむきに生きる犬たち。私たち人間は学ぶことがたくさんあります。



イタズラ好きで甘えん坊だったヤマトくん

愛するヤマトと私を親身に気遣い、 最期まで尊厳を守ってください、感謝です!

●滋賀県在住 ヤマトの母 相坂 万里子(あいさか・まりこ)

愛犬ヤマト(黒ラブ 享年16歳)は、1歳半で介助犬としてうちへ来ました。それから15年間、いつも私のそばにいて心の支えになってくれました。介助犬のわりにはテンションが高くイタズラもしょっちゅう…。大きな体で身体をくっつけてきて甘える姿はいいおしく「元気で長生きしてほしい。最期まで一緒にいよう」と思いました。幸い体は丈夫で大きな病気もなく12歳を過ぎても周囲の方からは「そんな年には見えないよ」と言われていました。しかし、15歳を過ぎたころから足腰が弱り始め、16歳を過ぎると立ち上がるのにも介助が必要になってきました。「介助犬を介助する・・・?」(^^;)と言う笑えない状況になり、いろいろ介護グッズを試しながらしのいでいましたが、折り悪く私が転倒して腰椎を圧迫骨折してしまい愛犬の世話をどこかをお願いするしか方策がなくなりました。

どこへ預けるか? 滋賀県の片田舎には、都会のように社会資源が豊富ではありません。まして犬とならぬおさらです。そこで、以前ペットライフネットの見学会でお邪魔したことのある「メローさん」に思い切って電話をかけてみました。親身になって話を聞いてくださり、入所を決めました。

入所のときに、「ここでお預かりするのは、飼い主さんが出来ないお世話を代わりにさせてもらっただけです。飼い主さんがそのことを犬たちに申し訳なく思われなくてもいいのですよ。いつでも好きな時に会いに来て下さいね」と言われました。しかし、帰る時にはやはりワンワン鳴いてる声聞きながら後ろ髪をひかれる思いでした。でも、毎日愛犬の様子を何回もLINEで送ってくださるので、いつもそばにいたような気がして不安や寂しさはあまり感じませんでした。なんといってもLINEの中の犬たちはいつもののびのびと楽しそうなのです。また、ふっと思いついて面会に行っても快く迎えてくださり、ヤマトや他の犬達とも楽しく過ごすことができました。犬舎もデイルームも清潔で、あれだけ犬がいても臭いもなくケアが行き届いていました。

ヤマトは2か月をお世話になり、最期はスタッフの方に看取られて逝きました。様子がおかしいと連絡をいただき、すぐに駆けつけましたが間に合いませんでした。しかし、遺体は可愛いお布団に寝かされていて、水色のリボンで姿勢がととのえられていて、最期まで犬と飼い主の尊厳を守ってくださったのだからと悲しい中にも暖かいものを感じることができました。最期の様子を話して下さるスタッフの目にも光るものがあり、ヤマトはここで大切にされて幸せだったのだと思います。私が1人だったこともあったのですが、翌日の火葬にも最後まで付き添ってくださいました。

もし、私が自宅で看取っていたら、仕事に行っている間は一人ぼっちで寂しい想いをさせてしまった事でしょう。老犬介護ホームメローさんには本当に感謝しています。



老犬介護ホームメロー
<https://www.rouken-mellow.jp/>

代表:竹内 秀公(たけうち・よしまさ)
連絡先:〒536-0011 大阪府大阪市城東区放出西2-4-13
電話番号:06-6955-9001
メールアドレス:info@rouken-mellow.jp
受付時間:7:00~19:00(年中無休)



ペットライフネットの



5種類の「わんにゃお信託®」で、 ペットの終生飼育を 実現します。

「わんにゃお信託®」は、大切なペットと終生ともに暮らしたいと願うシニア世代のために創りました。飼い主のあなたに「もしも!」のことが起こった時、あなたの遺志を受け継ぎ、ペットの終生飼育を実現します。

もしもの時、ペットを託せる人がいない方のために…

- ① わんにゃお定期
すでにペットの終生飼育費用を用意している方に最適です。
- ② わんにゃお遺言
病気入院や高齢者施設への入居などで、ペットのお世話ができなくなることがはっきりした方にお勧めしています。
- ③ わんにゃお信託
終生飼育費用を自分名義の定期預金で管理するのが苦手な方には、信託会社にまかせる信託契約をお勧めします。
- ④ わんにゃお積立
ペットを飼いはじめたばかりで、ペットの生涯飼育費用をこれから貯めていこうと考えている方にお勧めします。

もしもの時、ペットを託せる人がいる方のために…

- ⑤ わんにゃお民事信託
もしもの時、ペットの世話を頼める方がいる場合に適した方法です。